（報道発表資料）
令和6年8月9日
北九州市保健所保健企画課
（担当：河﨑、正野）
電話：093－522－5721

報 道 機 関 各 位

結核集団感染事例の発生について

市内において、結核（2類感染症）の集団発生（※参考1）がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づき、お知らせいたします。

1 概　要

〇令和6年4月1日（月）に、日本語教育機関の学生（患者 A）が結核と診断され、北九州市保健所に届出がありました。

〇患者 A に接触した可能性のある、日本語教育機関の学生・職員等335名（接触者）のうち、8月9日現在、10名の発病と8名の感染が確認されました（※参考2、3）。

また、患者 A と患者 B（発病者）の結核菌の結核菌ゲノム解析（※参考4）を実施し、 8 月1日にゲノムが一致していることが判明しました。

〇接触の状況により、「結核集団感染事例」に該当する（※参考1）と判断し、厚生労働省に報告しました。

接触者健診の実施状況（令和6年8月9日時点、初発患者は含まず）

接触者	結　果	
	結核　発病者	結核　感染者
335名	10 名	8名

※なお、現在、本事例の発病者・感染者は、人に感染させるリスクはありません。

2 結核　発病者の状況　　11 名（男性：7名、女性：4名）

			性別	年代	届　出　日	治療状況等
初発患者 A			男	20代	令和6年4月1日	通院治療中
接触者のうち発病者 10名	1	患者 B	男	20代	令和6年4月3日	通院治療中
	2	患者 C	男	20代	令和6年4月11日	通院治療中
	3	患者 D	男	20代	令和6年5月10日	通院治療中
	4	患者 E	男	20代	令和6年5月14日	通院治療中
	5	患者 F	女	20代	令和6年5月27日	通院治療中
	6	患者 G	男	20代	令和6年6月18日	通院治療中
	7	患者 H	女	20代	令和6年6月18日	通院治療中
	8	患者 I	女	20 代	令和6年6月18日	通院治療中
	9	患者 J	女	20代	令和6年7月30日	通院治療中
	10	患者 K	男	20代	令和6年7月30日	通院治療中

3 結核　感染者の状況（発病者は含まず）　　8名（男性：5名、女性：3名）

年　齢	20 代	30代	40代	50 代
接触者のうち感染者	7	0	0	1

4 行政対応

① 発病者および感染者に対しては、適切な診療を受けるよう指導。
② 接触者に対し、計画的に接触者健康診断(※参考2)を実施。
③ 当該日本語教育機関に対し、結核の早期発見に努めるよう指導。
④ 市民に対して引き続き、結核に関する啓発を行う。

5 市内での結核集団感染事例

平成 30 年	1 件(日本語教育機関)
平成 31 年(令和元年)	2件(高齢者施設、職場等)
令和 2 年	1件(家族等)
令和 4 年	1件(医療機関)
令和 6 年	1 件(本件)

6 結核患者の北九州市への届出状況 (単位:人) (令和6年8月8日現在)

	令和元年(平成 31 年)	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
届出件数	208	177	205	164	164	125(本件含む)

※集団発生事例を報告することにより、集団施設等での感染予防の徹底をお願いするものです。

- 患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「結核について」のとおり市民の皆様に感染防止を呼びかけています。報道各位におかれても、別添の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

【予防のポイント】 別添参照

【参考 1】結核の集団発生の定義について

同一感染源が2家族以上にまたがり、20人以上に感染させた場合をいう(発病者1人を6人の感染者に相当するものとして感染者数を計算する)。

【参考 2】接触者健診について

接触者健診は、患者との最終接触日から3ヵ月後以降に結核菌の感染有無を調べる血液検査(IGRA検査)や結核の発病を調べる胸部エックス線検査などを行う。
【感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き(改訂第 6 版)」に準ずる】

【参考 3】用語の定義について(感染と発病)

「感染」とは、吸い込んだ結核菌が肺に定着した状態をいう。結核菌が体内にあっても、特に悪い影響を与えていない状態で、他の人への感染性もない。

「発病」とは、結核菌が体内で増えて病気を引き起こした状態をいう。発病初期は、咳や痰の中に結核菌は出ないが、結核の進行に伴い、咳や痰の中に結核菌が排菌され、排菌量が増えると他の人にも感染させるようになる。

【参考 4】ゲノム解析について

菌株の遺伝子配列を網羅的に解読し、複数の患者から分離された菌株が同じ株なのか違う株なのかを見分けることができる。

《結核について》

結核は、医療の進歩等により、「薬を飲めば治る病気」になりましたが、今でも全国で年間10,000 人以上が結核と診断されています。

早めに結核と分かれば、早期の治療で重症化を防ぎ、また、大切な家族や職場等への感染の拡大を防ぐことが出来ます。

早期発見するために 「長引く咳は、赤信号」

- せきや痰など上記の症状が 2 週間以上続くときは、内科（専門は呼吸器科）を受診し、胸部エックス線検査を受けましょう。
- せき、くしゃみが出だしたら、周囲にうつさないためにマスクを着用しましょう。

➢ 結核とは

結核は、結核菌という細菌が体の中に入ることによって起こる病気です。
結核菌に感染していても、多くの人は結核を発症しません。結核菌に感染した人のうち、結核を発症する人は約 5～10%です。しかし、身体の抵抗力が落ちている人では、結核を発症するリスクが高くなります。

➢ 症状

せき、痰、発熱、体のだるさ、寝汗、胸の痛み、体重減少などが主な症状です。風邪の症状に似ていますが、風邪との違いは症状が数週間続き、治ったと思ったらまた繰り返すことです。ただし、高齢者の方は、症状が出にくい場合がありますので、全身状態の注意深い観察が重要です。重症化すると周りの人にうつしてしまう可能性もありますし、場合によっては死に至ることもあります。
また、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。

➢ 感染経路

痰（たん）の中に結核菌が出るようになった結核患者がせきやくしゃみをすると、しぶきが飛び散ります。このしぶきに含まれる水分が蒸発すると結核菌が空中に浮遊するようになり、それを吸い込むことによって感染の機会が生じます。結核菌を吸い込んでも鼻やのど、気管支で結核菌が止まれば感染しません。感染は、菌が肺にたどり着き、そこで増殖してはじめて起こります。結核に感染しても必ず発病するわけではなく、通常は免疫力が結核菌の増殖を抑え込みます。増殖を抑えきれなくなると、結核になります。しかし、結核菌に感染して発病するのは 10 人に 1 人から 2 人程度といわれています。

➢ 予防のポイント

- BCG ワクチンを接種する
  BCG は発病率を抑え、重症化を防ぐためのワクチンです。
  BCG 接種は、小児の結核性髄膜炎や粟粒結核の発病防止に有効であるといわれています。乳幼児は1歳までに接種を受けましょう。BCG 接種によって発病が予防でき、もし発病しても重症化しないとの報告があります。
- 抵抗力をつけましょう
  十分な睡眠、規則正しい生活、適度な運動、バランスのとれた食事等、健康的な生活習慣を身につけ、体調を整えていれば感染や発病を防ぐことができます。
- 年に 1 回は、胸部エックス線検査を受けましょう
  職場の定期健康診断や市が実施している結核・肺がん検診などを受けましょう。
  特に 80 歳以上の結核患者が多いため、自覚症状がなくても受診しましょう。